


 たやちょうつつみ  
**田谷町堤遺跡 (横浜市栄区No. 110)**

所在地 横浜市栄区田谷町 1914 他  
 期間 平成 31 (2019) 年 4 月 1 日～  
 令和元 (2019) 年 10 月 31 日  
 調査面積 914m<sup>2</sup>  
 担当者 渡辺 外・須田英一・菊川 泉  
 新山保和・植山英史・三瓶裕司

**調査概要**

本調査は国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所による、高速横浜環状南線建設事業に伴う事前の発掘調査として実施しました。

遺跡は横浜市域の南西部、柏尾川の支流である関谷川の西側、丘陵と谷戸の間に位置する斜面地に立地し、JR 東海道線・横須賀線及び湘南モノレール江ノ島線の大船駅から、北西約 2.3 km、国道 1 号線の原宿交差点より東約 1.5km に所在します。

今回の調査では、近世(江戸時代)と中世後半(戦国時代)、奈良・平安時代～中世前半(鎌倉・室町時代)、古墳時代前期～後期、弥生時代～古墳時代初頭の五段階にわたる遺構面と遺物包含層を発見することが出来ました。

調査地点の現況は、これまでに調査を実施してきた 1 区～3 区に対し、その間に挟まれた道路部分である 4 区について調査を実施しました。この 4 区は着手時期・工法等の理由により段階的に発掘作業を進めたことから、水路を境に北側・南側に細分して別々のタイミングで着手しています。

(1) **近世** 溝状遺構 2 条、畝状遺構 1 箇所、

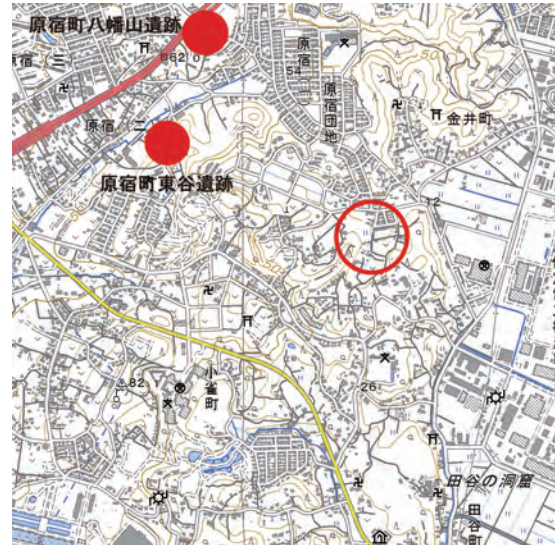


図1 調査地の位置 (1/25000)

土坑 4 基、ピット 6 基を検出しました。これらの遺構群は既調査の 1 区及び 3 区でも緩やかな斜面地を中心に調査区のほとんどの部分で見つかり、遺構の種別毎で見ると形状や規模に一定の規格性がみられること、また地形や土地の地割に沿った形で配置される傾向が認められる点も共通しています。畝状遺構や土坑群・ピット群を中心に、溝状遺構で囲う、又は土地の境界を区画するなど、位置関係上の関連性が見られることから、それぞれの種別の遺構群が耕作その他の用途により構築され、それぞれの区画が有機的な関連性を持って配置されたものと考えられます。遺物は 18 世紀後半以降の陶磁器類、かわらけの破片が出土したほか、杭・板材等の木製品が出土しています。

(2) **中世後半** 4 区で土坑 12 基と溝状遺構 7 条、ピット 9 基を検出しました。該期の遺構群は 2 区を除く調査範囲全体で見つかってお

り、土坑・ピット・溝状遺構の分布や配置状況を比較すると、近世の遺構群のそれと主軸方位等を含め、似通った様相であることが看取されます。第二面の遺構群をみると、近世の遺構群と異なる点は過年度の調査時に遺構種別に僅かな違いがみられたことくらいで、そのほかの遺構群の分布・集中をみるとほぼ同じ傾向にあることがわかります。溝状遺構は地形の傾斜に交差する方向に掘られたものが多くみられ、一部に近世の溝と主軸の方位が異なるものも認められます。遺物は陶磁器、かわらけ、木製品などが出土しています。

**(3) 奈良・平安時代～中世前半** 土坑9基と溝状遺構14条、ピット120基を検出しました。該期の遺構群もまた第一・二面と同様に、調査範囲のうち2区を除くほぼ全ての範囲で見つかっており、形状や規模は同種の遺構同士であっても規則性は極めて乏しく、分布にも特に偏りは認められません。遺物は素焼きの土器である土師器の坏・甕や、須恵器甕の破片などが出土しています。

**(4) 古墳時代前期～後期** 竪穴住居跡1軒、土坑13基、溝状遺構4条、ピット8基を検出しました。該期の遺構は過年度の1区北側及び3区の調査でも検出しており、緩斜面から谷戸への落ち際に至るまで、分布していることが判

りました。遺物は古墳時代の土師器の坏・甕などが破片の状態出土しています。

**(5) 弥生～古墳時代初頭** 土坑4基、溝状遺構3条、ピット6基を検出しました。遺物は弥生時代後期～古墳時代初頭の壺形及び甕形土器の破片が出土しています。

### まとめ

平成31・令和元(2019)年度の田谷町堤遺跡発掘調査においては、上述のように五つの時代・時期にわたり遺構・遺物を発見することができました。調査地点周辺では、丘陵上から低地域にかけて同様の事例を確認できるような発掘調査事例は、同じ環状南線関連遺跡の田谷町相ノ田谷遺跡以外には乏しく、田谷町周辺の地域史を考える上で重要な資料として評価出来るものです。これらの遺跡は非常に似通った様相を示しており、本遺跡でも河岸段丘上の低位緩斜面に展開した耕作地等としての様相を呈しています。

ただし本遺跡では、今回はじめて住居跡と思しき遺構も確認しており、市内南西部でも類例の多くない遺跡の発掘調査事例として、引き続き本遺跡の実像を明らかにする事が、今後の発掘調査と出土品等整理作業における課題と考えています。

(渡辺 外)

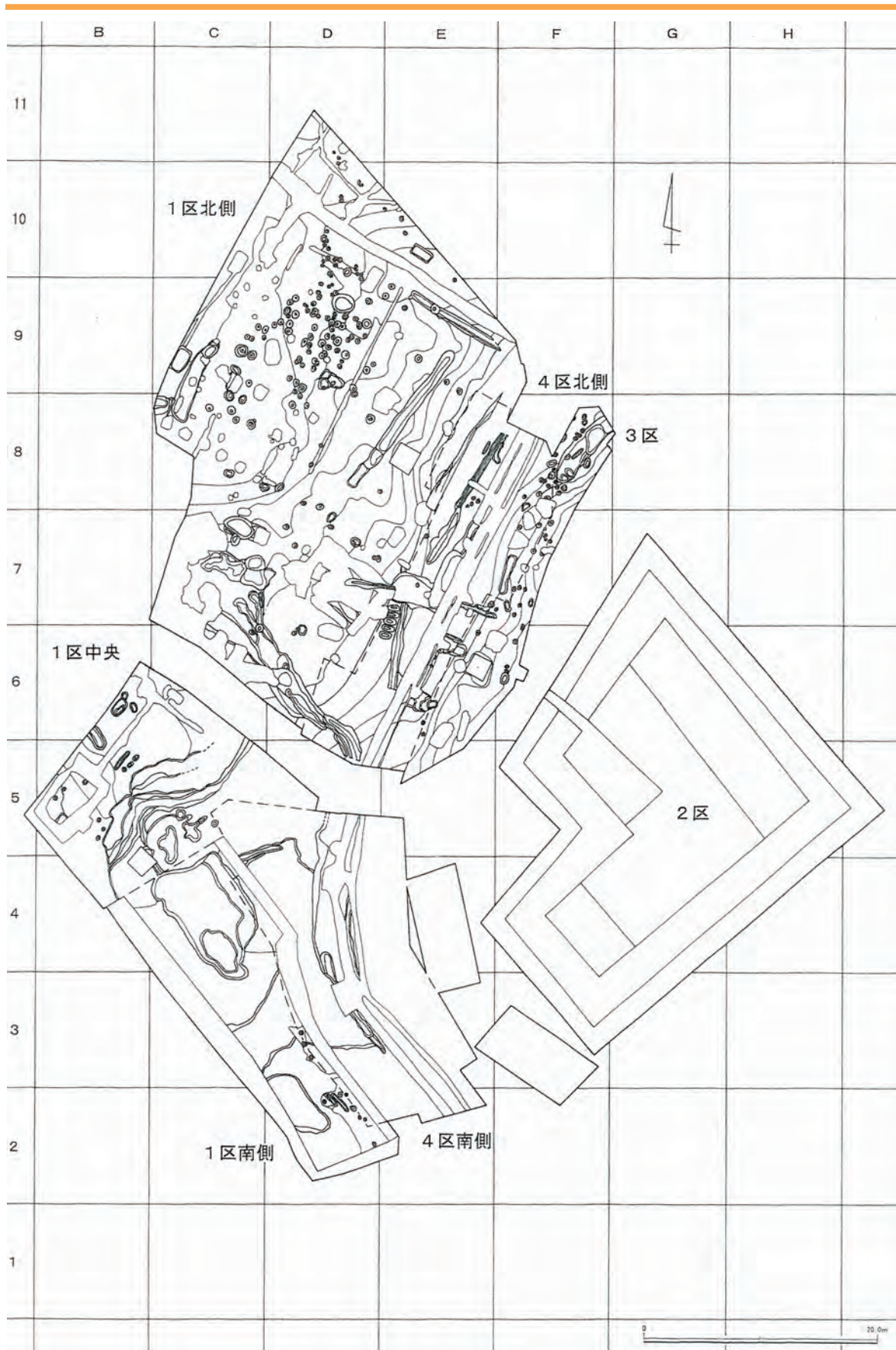


図2 田谷町堤遺跡 近世遺構全体図 (1/500)



写真1 調査地点全景 (南から)



写真4 4区南側 中世土坑遺物出土状況 (南から)



写真2 4区南側 近世遺構群 (北から)



写真5 4区南側 中世遺物出土状況 (西から)



写真3 4区南側 中世遺構群 (北から)



写真6 4区北側 古墳時代遺物出土状況 (東から)